

■オホーツクの語源

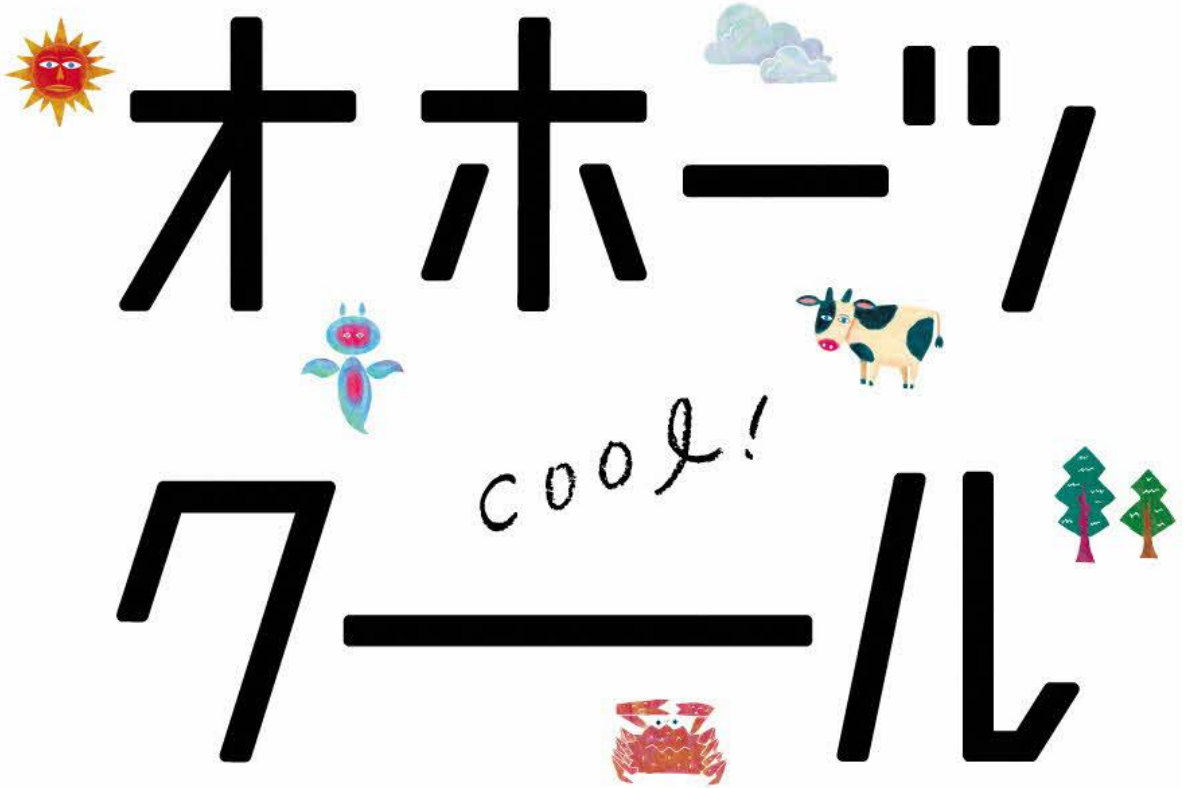
17世紀前半に現在のハバロフスク地方のオホーツクの地に入ってきたロシア人が、現地の住民にそこを流れる川の名前を聞いたところ、川を意味する「okāt」（エベン語）と答えた。ロシア人は、その言葉をその川の名前とし、川の河口につくった町を川の名前にちなんでオホーツクと名付け、さらにその町が面する海をオホーツク海と呼ぶようになりました。（参考文献：池上二郎1988「ことばの上からみた東北アジアと日本」『北海道の文化59』北海道文化財保護協会。北海道立北方民族博物館ホームページ）

なお、オホーツクの語源については諸説あるようですが、「もとはロシア語ではなく、土地の原住民のことば」が由来で、「日本列島に住む私どものことばも、広義にいえばツングース語の遠縁の言語になる」という説もあります。（引用部分：司馬遼太郎『街道をゆく38<オホーツク街道>』）

■沿革

- 1869年（明治2年） 開拓使設置、蝦夷地を北海道と改称、11国86郡を置く。
この地方は北見国網走・斜里・常呂・紋別の4郡となる。
- 1872年（明治5年） 全道を6部に区分し札幌に本庁、函館など5カ所に支庁を置く。
4郡は、根室支庁の管轄に属する。
- 1873年（明治6年） 網走に根室支庁出張所を設置。
- 1880年（明治13年） 網走・斜里・常呂・紋別郡役所が網走に設置される。（以下「網走郡役所」という）
- 1881年（明治14年） 釧路国網走郡を北見国網走郡に合併。
- 1882年（明治15年） 開拓使を廃止、函館・札幌・根室の3県を置く。4郡は根室県に属する。
- 1886年（明治19年） 3県1局を廃止し、北海道庁を設置。函館・根室に支庁を置く。
網走郡役所は従来どおり4郡を管轄する。
- 1897年（明治30年） 北海道区制、一級町村、二級町村制公布。郡役所を廃止し19支庁を置く。
この地方に網走支庁が設置される。
- 1910年（明治43年） 鉄道開通に伴い交通事情が改善されたことから、支庁の一部統合により14支庁体制が形成される。
- 1923年（大正12年） 戸長役場を全廃し、町村制が施行される。（市6、一級町村99、二級町村155）（この地方は5町17村）
- 1947年（昭和22年） 地方自治法施行。地方公共団体「北海道」となる。
- 1948年（昭和23年） 北海道支庁設置条例施行に伴う14支庁体制となる。
- 1956年（昭和31年） 相内村が北見市に編入。佐呂間町、若佐村が合併し、佐呂間町を設置。
- 1961年（昭和36年） 端野村が町制を施行。
- 2005年（平成17年） 生田原町、遠軽町、丸瀬布町、白滝村が合併し遠軽町を設置。
- 2006年（平成18年） 北見市、端野町、留辺蘂町、常呂町が合併し、北見市を設置。東藻琴村、女満別町が合併し、大空町を設置。
- 2009年（平成21年） 上湧別町、湧別町が合併し、湧別町を設置。3市14町1村体制となる。
- 2010年（平成22年） 北海道総合振興局及び振興局の設置に関する条例施行に伴い、オホーツク総合振興局を設置。





北海道オホーツク18市町村（北見市、網走市、紋別市、美幌町、津別町、斜里町、清里町、小清水町、訓子府町、置戸町、佐呂間町、遠軽町、湧別町、滝上町、興部町、西興部村、雄武町、大空町）とオホーツク総合振興局で組織するオホーツクAI推進協議会では、地域の魅力を国内外の多くの方に知っていただき、観光、物産、移住定住など様々な形での地域活性化につなげるため、「オホーツクール」をイメージコンセプトに様々な魅力発信事業を行っています。詳細は、オホーツク総合振興局地域創生部地域政策課ホームページ（右のQRコードよりアクセス可）よりご確認ください。



オホーツク2025（管内概要）
編集：北海道オホーツク総合振興局地域創生部地域政策課
〒093-8585 網走市北7条西3丁目
TEL：0152-41-0620
FAX：0152-44-7261
<http://www.okhotsk.pref.hokkaido.lg.jp>
発行：2025年5月